

## ディスコグラフィー収載

### ディスコグラフィー【2018No.92】(HP 収載)

分類：CD

作曲家：ベートーヴェン

曲名：ピアノ三重奏曲全集

演奏：Trio Wanderer

発売：harmonia mundi / King International

No. : KKC-5635/38

概要：

[Trio Wanderer の演奏会](#)に行き買い求めてきたものです。



#### 【収録曲】

4 枚の CD に下記が衆力されています。

##### CD1

ピアノ三重奏曲第 1 番変ホ長調作品 1-1、ピアノ三重奏曲第 2 番ト長調作品 1-2

##### CD2

ピアノ三重奏曲第 3 番ハ短調作品 1-3、ピアノ三重奏曲第 4 番変ロ長調作品 11-1「街の歌」、ピアノ三重奏曲第 10 番変ホ長調作品 44～創作主題による 14 の変奏曲（さあ、彼女とはお別れだ）

##### CD3

ピアノ三重奏曲第 5 番ニ長調作品 70-1「幽霊」、ピアノ三重奏曲第 6 番変ホ長調作品 70-2

##### CD4

ピアノ三重奏曲第 7 番変ロ長調作品 97-1「大公」、ピアノ三重奏曲第 11 番ト長調作

品 121a (『私は仕立て屋カカドゥ』の主題による 10 の変奏)、ピアノ三重奏曲第 9 番変ホ長調 WoO38、ピアノ三重奏曲第 8 番変ロ長調 WoO39

【録音】

2010 年 12 月、2011 年 9 月

テルデックス・スタジオ・ベルリン

販売サイトには次のような解説の記載があります。

「18 世紀の終り、ピアノ三重奏曲は、ピアノ・ソナタの延長線上にあるもの、いわばヴァイオリンやチェロが、ピアノの補強やアクセント的な役割を担うものとされ、弦楽四重奏よりも一段軽めなジャンルで、三楽章構成で、最終楽章は軽やかで優雅なロンドで書かれるのが常でした。ベートーヴェンはこの慣習に終止符を打つべくピアノ三重奏曲作品 1 を 1795 年、世に出しました。弦楽四重奏曲と同じように四楽章構成にし、終楽章をソナタ形式で書くことにより、音楽に深いドラマと交響曲のように雄大さを与えました。そして自身がピアニストとして舞台に招かれることを前提として作曲したため、とりわけこの作品 1 はピアノ・パートの充実が目立ちます。そんな野心に溢れた若きベートーヴェンの作品 1 に始まり、交響曲第 3、5、6 番などを書いた充実期(1810 年前後)に生み出された作品 70 など、ベートーヴェンが折に触れ作曲し続けたピアノ三重奏曲は、どの作品も、またどの作品の各パートも目を見張る充実ぶり。慣習の 3 楽章構成で、最終楽章がロンドの作品もありますが、どれもベートーヴェンの野心と情熱、才能と創意に満ちています。そんなピアノ三重奏の全曲を、トリオ・ワンダラーの素晴らしい演奏で心行くまで堪能できる、贅沢なセットです。」

これらのうち、演奏会では、第 7 番「大公」が演奏されました。CD で聴いても、演奏会での力強い演奏や響きの豊かさは感じられます。

第 7 番「大公」以外は、それほど馴染みがありませんが、通して聴くと、なかなか味わい深い曲もあり、曲想も軽快なものから瞑想的なものまでと、いろいろと変化があつて興味深いものがあります。

以上